

イスラエルの人々⑮

□イスラエルの人々の信仰の手本

主はモーセに言われた。「アロンの杖をあかしの箱の前に戻して、逆らう者たちへの戒めのために、しるしとせよ。彼らの不平をわたしから全くなくせ。彼らが死ぬことのないようにするためである。」

モーセはそうにした。主が命じられたとおりにしたのである。（民 17：10～11）

□前回までの振り返り

1. エジプトを出てから 2 年目の第二の月（5 月）20 日、イスラエルの民は、約束の地に向けてシナイ山のふもと（シナイの荒野）から出発した。
2. 約束の地を目前にした宿营地、パランの荒野のカデシュ・バルネアで大きな出来事があった。イスラエルが主を試み、主の声に聞き従わなかった出来事の 10 番目。それまでエジプトと荒野ではっきりと主の栄光を見ながら、十度も主に聞き従わなかったイスラエルのその時の世代は、ついに約束の地に入ることができなくなり、荒野の旅は 40 年続くと宣告された。
3. イスラエルの民は、宿营地カデシュ・バルネアから旅立ち、約束の地を背にして再び荒野の奥へと進んでいった。前回、その旅の中で起きた反乱、コラによる反乱事件であった。首謀者はレビ族のコラ、これにルベン族のダタンとアビラムが共謀したので、彼らの住まいの天幕の足もとの地面が割れて、彼らは家族や所有物とともに地の中に呑み込まれた。またコラに同調した 250 人は主から出た火により焼かれて死んだ。

- ただし、コラの息子たち 3 人は死ななかった。その子孫は、預言者サムエル。サムエルの孫は歌い手ヘマン（ダビデ王の賛美チーム・3 リーダーの一人）

4. 今回はコラ事件の翌日に起きた大乱事件である。民数記 16 章 41 節から 17 章 11 節。

□イスラエルの人々⑮ コラ事件の翌日に起きた大乱事件

1. コラ事件の翌日、イスラエル全会衆による大乱が起きた。そのとき、会見の天幕を雲がおおい、主の栄光が現れた。

16：41～42 その翌日、イスラエルの全会衆は、モーセとアロンに向かって不平を言った。「あなたがたは主の民を殺した。」

会衆がモーセとアロンに逆らって結集したとき、二人が会見の天幕の方を振り向くと、見よ、雲がそれをおおい、主の栄光が現れた。

2. モーセとアロンが会見の天幕の前に来ると、主はモーセに告げられた。「あなたがたはこの会衆から離れ去れ。わたしはこの者どもをたちどころに絶ち滅ぼす。」
モーセとアロンはその場にひれ伏した（民 16：43～45）

3. モーセはひれ伏しながら、今回ばかりはとりなしはきかない、神からの罰がもう始まったとわかった。モーセは、神の怒りを鎮めるために、すぐにアロンに命じて、宥めの香をたかせた。

16：46 モーセはアロンに言った。「火皿を取り、祭壇から火を取ってそれに入れ、その上に香を盛りなさい。そして急いで会衆のところへ持って行き、彼らのために宥めを行いなさい。主の前から激しい御怒りが出て来て、神からの罰がもう始まっている。」

16：47～48 モーセが命じたとおり、アロンが火皿を取って集会のただ中に走って行くと、見よ、神の罰はすでに民のうちに始まっていた。彼は香をたいて、民のために宥めを行った。彼が死んだ者たちと生きている者たちとの間に立ったとき、主の罰は終わった。

4. コラの事件で死んだ者とは別に、この主の罰で死んだ者は、14,700 人であった。アロンが会見の天幕の入り口にいるモーセのところへ戻ったときに、主の罰は終わっていた。（民 16：49～50）
5. 主は、アロンの祭司職が神によって立てられたことを明らかにして、イスラエルの人々の不平を鎮めるために、モーセに次のように命じた。

17：2～5 「イスラエルの子らに告げ、彼らから杖を、部族ごとに一本ずつ、彼らの部族のすべての族長から十二本の杖を取れ。その杖に各自の名を書き記さなければならない。レビの杖にはアロンの名を書き記さなければならない。彼らの部族のかしらにそれぞれ一本の杖とするからだ。あなたはそれらを、会見の天幕の中の、わたしがそこであなたがたに会うあかしの箱の前に置け。わたしが選ぶ人の杖は芽を出す。こうしてわたしは、イスラエルの子らがあなたがたに向かって言い立てている不平を、わたし自身から遠ざけ、鎮める。」

6. モーセがイスラエルの人々にそのように告げたので、イスラエルの族長たちはみな、部族ごとに、族長一人に一本ずつの杖、十二本をモーセに渡した。アロンの杖もそれらの杖の中にあった。モーセはそれらの杖を、主の前、すなわちあかしの天幕の中に置いた（民 17：6～7）

7. その翌日、モーセはあかしの天幕に入って行った。すると驚いたことに、レビ族を代表するアロンの杖が芽を出し、つぼみをつけ、花を咲かせて、アーモンドの実を結んでいた。

17：8 その翌日、モーセはあかしの天幕に入って行った。すると見よ。レビの家のためのアロンの杖が芽を出し、つぼみをつけ、花を咲かせて、アーモンドの実を結んでいた。

8. モーセがそれらの杖をみな、主の前から持って来て、イスラエルの族長たち全員がいるところで見せたので、彼らは見て、それぞれ自分の杖を取った。(民 17：9)
9. 主はモーセに、アロンの杖を天幕の中、あかしの箱の前に戻して、今後、逆らう者たちへの戒めのために、しるしとせよ、と命じた。モーセはそうにした。

17：10～11 主はモーセに言われた。「アロンの杖をあかしの箱の前に戻して、逆らう者たちへの戒めのために、しるしとせよ。彼らの不平をわたしから全くなくせ。彼らが死ぬことのないようにするためである。」

モーセはそうにした。主が命じられたとおりにしたのである。

- **彼らの不平をわたしから全くなくせ・・・**イスラエルの民がモーセとアロンに向かって言い立てる不平は、主に対する不平である。「わたしが選ぶ人の杖は芽を出す」と予告して、主はアロンの杖に奇跡を起こした。モーセとアロンを選んだのは主であることを示し、イスラエルの民が不平を言わないようにするためであった。

□9 番の波線部「彼らが死ぬことのないようにするためである」について

不平を言い立てたために神からの罰を受け、14,700 人もの人が死にました。「死ぬことのないように」とは、そのような神の罰を受けることのないように、という意味です。

しかし、イスラエルのあの世代、20 歳以上で登録され数えられた人たちは、ヨシュアとカレブ以外、荒野の旅 40 年のうちに死んで、約束の地に入ることはできません。「不平を言わなくてもどうせ荒野で死ぬのだから、『死ぬことのないように』と言われても、むなしいのでは？」という疑問の声があがるとしたら、あなたはどのように思いますか？

次の三つの質問をヒントに考えましょう。

1. 神に不平を言い立てるのは、神を信頼しているといえますか？
2. アロンの杖に起きた奇跡は、アブラハムのどのような信仰を思い起こさせますか？
3. その信仰に立つとき、たとえ荒野の旅 40 年の中で自分は荒野で死んで約束の地に立てないとしても、将来どうなるという希望を持つことができますか？